

2014年3月期第3四半期業績概況

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

増収が続くも、加工食品のコスト吸収策が遅れ減益

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	548	60	12%	1,552	159	11%	2,035	195	11%	2,045	-10
水産	210	16	8%	555	49	10%	686	49	8%	670	16
畜産	231	22	10%	607	31	5%	792	37	5%	761	31
低温物流	444	35	9%	1,277	86	7%	1,682	118	8%	1,662	20
不動産	14	2	17%	38	3	9%	50	3	5%	49	1
その他	11	-4	-27%	26	-16	-39%	36	-22	-38%	36	0
調整額	-51	0	-	-146	7	-	-188	12	-	-188	0
売上高合計	1,406	131	10%	3,909	317	9%	5,093	392	8%	5,035	58
加工食品	17	-5	-21%	27	-25	-48%	33	-27	-45%	46	-13
水産	5	2	54%	6	4	238%	3	2	324%	3	0
畜産	2	-0	-14%	1	-4	-86%	1	-4	-81%	0	1
低温物流	32	1	3%	76	3	5%	88	2	3%	85	3
不動産	6	1	12%	18	1	6%	23	0	1%	23	0
その他	2	1	62%	2	-0	-14%	4	-0	-7%	4	0
調整額	0	-1	-	-0	0	-	0	-0	-	-1	1
営業利益合計	64	-2	-3%	130	-21	-14%	152	-27	-15%	160	-8
経常利益	63	1	1%	125	-19	-13%	138	-34	-20%	146	-8
当期純利益	43	20	86%	85	-1	-2%	87	-11	-11%	87	0

注:①見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年10月29日に発表した見込

②年間の為替レートは、1米ドル100円、1ユーロ130円を想定

ROE	7.1%	-1.1%		7.1%	-
EPS	30円	-3円	-9%	30円	-

- 1.売上高は主力の加工食品と低温物流に加え、水産・畜産も伸長し増収。
- 2.営業利益は水産や低温が好調だったが、加工食品をカバーできず全体では減益。
- 3.当期純利益は前年の減損損失の影響がなくなるが、累計では営業減益が響き前年並み。
- 4.通期見込は売上高を上方修正、営業利益以下を下方修正。

コスト吸収策の遅れや更なる原材料コスト上昇も響き減益

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期			第3四半期(累計)			通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減	
加工食品	売上高 計	548	60	12%	1,552	159	11%	2,035	195	11%	2,045	-10
	家庭用調理品	147	5	4%	426	22	5%	560	17	3%	575	-15
	業務用調理品	255	23	10%	696	54	8%	919	74	9%	914	5
	健康価値	11	3	30%	31	-3	-8%	42	1	2%	42	0
	その他	135	28	26%	399	85	27%	514	103	25%	514	0
	営業利益	17	-5	-21%	27	-25	-48%	33	-27	-45%	46	-13

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年10月29日に発表した見込

調理冷凍食品の販売は引き続き好調に推移。営業利益は価格改定等の効果が順次拡大しつつも、一部の実施時期の遅れやえびなどの更なる原材料コスト上昇も響き減益。通期見込は4Qの家庭用調理品の売上減やコスト吸収策の遅れなどを反映し、売上高、営業利益を下方修正。

- 1.家庭用調理品：前年のTV番組の反動などで増収幅は一時的に縮小するも、引き続き販売は堅調に推移。チキン加工品や焼売などの中華惣菜が寄与。
- 2.業務用調理品：チキン加工品に加え、コロッケの販売が好調に推移。
- 3.その他：イノバジアン社のアジアンフーズの販売増加などが寄与。

■主要施策の進捗・課題への打ち手

- 1.価格改定等のコスト吸収策を引き続き実行し、利益改善を進める。
- 2.原材料を含め引き続きコスト削減を徹底する。

水産は計画通りに進捗。畜産は通期での黒字を確保

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	210	16	8%	555	49	10%	686	49	8%	670	16
	営業利益	5	2	54%	6	4	238%	3	2	324%	3	0
畜産	売上高	231	22	10%	607	31	5%	792	37	5%	761	31
	営業利益	2	-0	-14%	1	-4	-86%	1	-4	-81%	0	1

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年10月29日に発表した見込

【水産】

値頃感のあるタコの販売増や年末商材の販売が計画通り進捗したことなどにより増収増益。

■主要施策の進捗・課題への打ち手

素材品は引き続き在庫管理を徹底し、加工品は好調なユーザールート向けの取扱拡大を進める。

【畜産】

国産のチキン、ビーフは供給不足のなか販売価格が上昇。調達網を活かし安定した販売に繋がったことで収益が好転。

■主要施策の進捗・課題への打ち手

円安による仕入コスト増に対し、引き続き販売価格への転嫁を進める。

堅調な物流ネットワークと海外が牽引

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
低温 物流	売上高計	444	35	9%	1,277	86	7%	1,682	118	8%	1,662	20
	国内小計	368	11	3%	1,067	25	2%	1,393	38	3%	1,375	18
	物流ネットワーク	242	11	5%	698	23	3%	913	29	3%	904	9
	地域保管	126	-0	-0%	369	3	1%	480	9	2%	471	9
	海外	68	23	51%	194	56	40%	265	76	40%	258	7
	その他・共通	8	1	17%	16	5	46%	24	5	24%	29	-5
	営業利益計	32	1	3%	76	3	5%	88	2	3%	85	3
	国内小計	29	-1	-2%	70	-3	-4%	80	-4	-5%	79	1
	物流ネットワーク	13	0	2%	31	-1	-4%	36	-2	-6%	35	1
	地域保管	17	-1	-5%	39	-1	-4%	44	-2	-5%	44	0
海外	3	1	128%	9	4	74%	11	4	53%	10	1	
その他・共通	0	0	-	-3	2	-	-3	3	-	-4	1	

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年10月29日に発表した見込

国内は電力料の上昇や東扇島2期棟稼働による償却負担増が響くが、物流ネットワークが計画を上回って推移。海外は欧州景気低迷の中、現地通貨ベースでも増収増益。通期見込は3Qまでの実績を反映し売上高、営業利益を上方修正。

- 1.物流ネットワーク：TC事業が堅調に推移。北九州TCが予定通り10月から稼働。
- 2.地域保管：電力料の上昇や輸入貨物の減少などが響き減益。
- 3.海外：輸入果汁などの在庫が引き続き高水準で推移。円安も増収増益に寄与。

■主要施策の進捗状況・課題への打ち手

電力料や輸配送コストが上昇する中、節電や車両の効率活用を推進する。

參考資料

連結バランスシートの変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

科目	13/12	13/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,520	1,238	282	①
固定資産	1,815	1,740	74	②
資産の部合計	3,336	2,979	357	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	1,061	1,006	54	③
固定負債	917	718	198	④
負債の部合計	1,978	1,725	252	
純資産の部	1,357	1,253	104	⑤
（うち株主資本）	1,244	1,188	55	
有利子負債	1,093	968	124	
（うちリース債務除く）	886	754	132	
科目	13/12	12/12	増減	
設備投資額	152	89	63	⑥
（うちリース資産除く）	131	68	62	
減価償却費	107	106	0	
（うちリース資産除く）	78	77	1	

【主な増減要因】

- ① 売上債権＋176、たな卸資産＋81
（売上増、年末需要による季節的要因）
- ② 有形固定資産＋57（主力事業の収益
基盤拡大に向けた設備投資）
- ③ 買掛金＋69（季節的要因）
- ④ 有利子負債＋200（設備投資代金
支払に備えた長期安定資金確保）
- ⑤ 利益剰余金＋56、その他の包括利益
累計額合計＋37
- ⑥ 設備投資の主な内訳
 - <加工食品>
 - 船橋第二工場
 - <低温物流>
 - 東扇島DC二期棟 物流センター増設

営業外収支・特別損益の変動要因

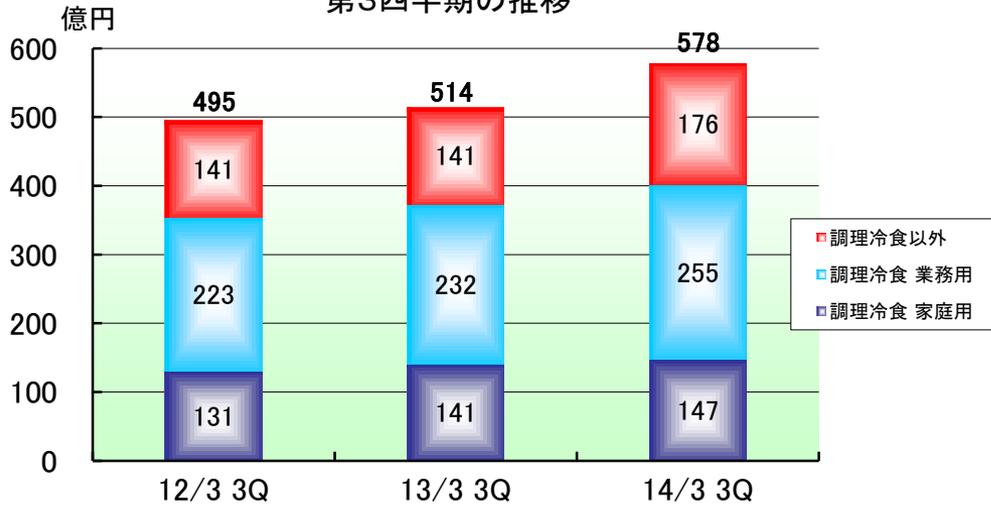
単位:億円(未満切り捨て)

プラス表示は利益を示す		第3四半期累計			通 期		
		13/12	12/12	増減	見込	13/3	増減
【営業外収支】		-4	-6	1	-14	-7	-6
(主要項目)							
金融収支		-2	-5	2	-6	-8	1
【特別損益】		11	-26	38	9	-36	45
(主要項目)							
固定資産売却益		0	4	-3	0	4	-3
投資有価証券売却益		19	10	8	19	10	8
固定資産売却損・除却損		-6	-2	-3	-9	-3	-5
減損損失	①	-0	-40	39	-0	-46	45

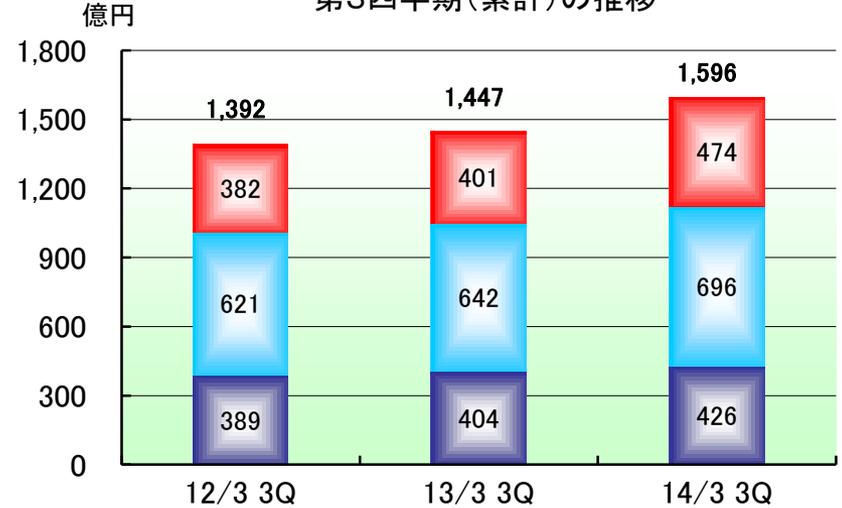
①GFPTニチレイの固定資産の減損など

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

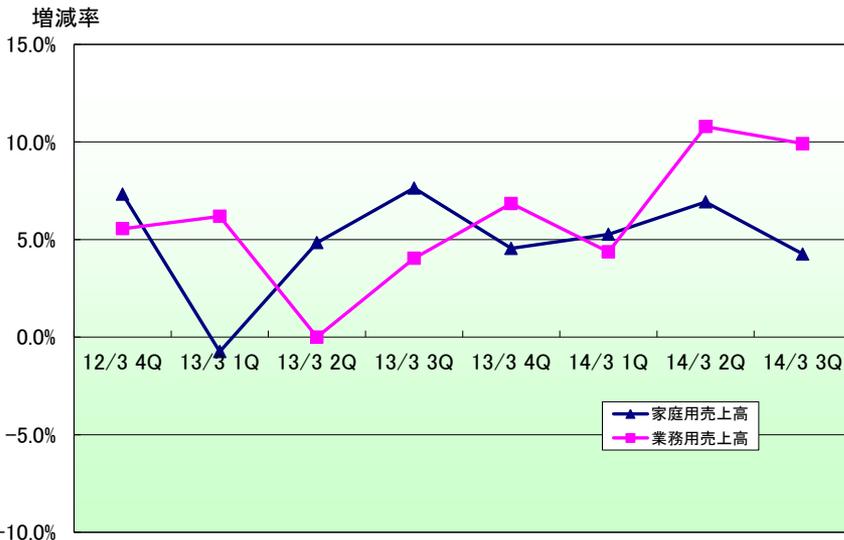
第3四半期の推移



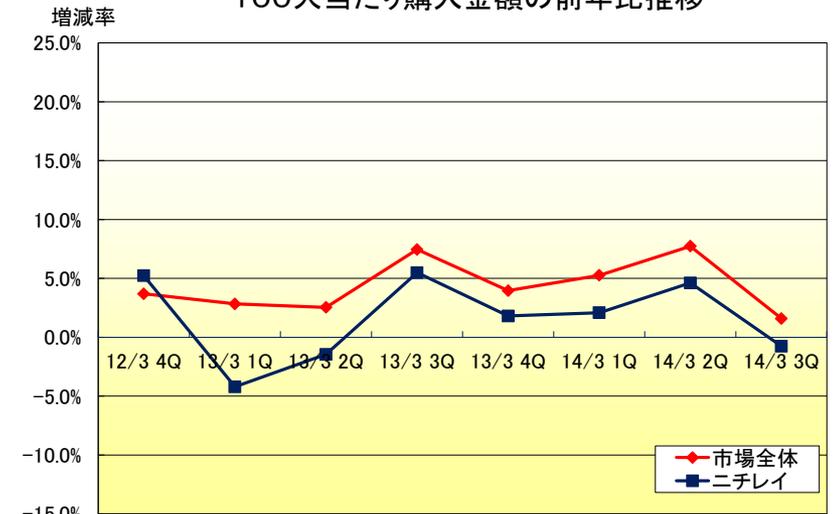
第3四半期(累計)の推移

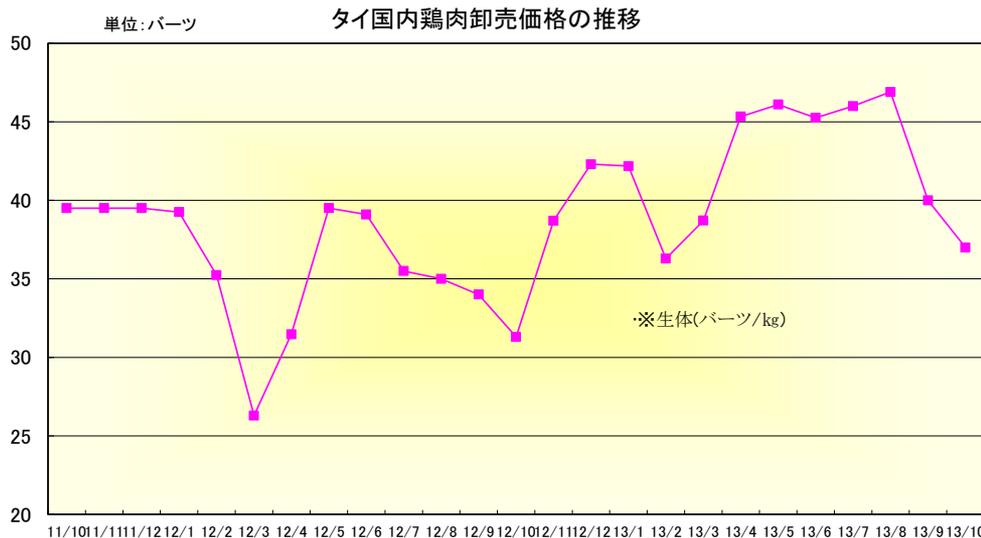


当社の家庭用・業務用調理冷食の売上高前年比増減率推移



SCI-personal 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年比推移





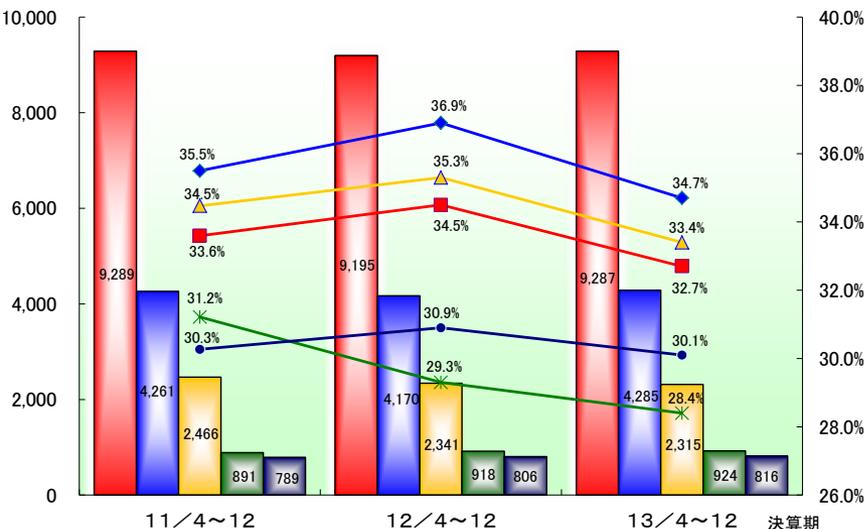
出典：(独)農畜産業振興機構(alic)発表のデータを当社が加工

冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

一般保管入庫数量：千屯

業界の冷蔵倉庫稼働状況

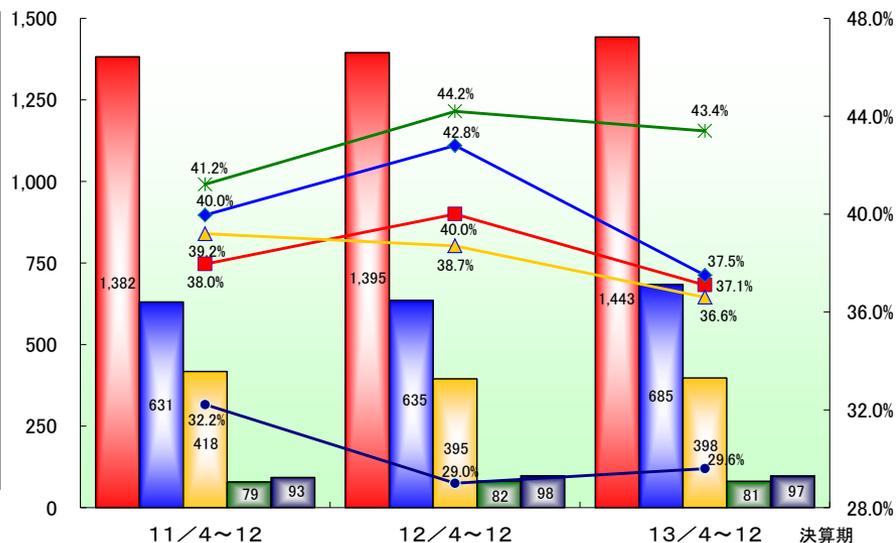
総合在庫率



一般保管入庫数量：千屯

当社の冷蔵倉庫稼働状況

総合在庫率



注：在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。